
夢の中

染井 耀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中

【Nコード】

N2989I

【作者名】

染井 耀

【あらすじ】

わたしはもうすぐ死ぬ　らしい。

それは、夢の中の美人さんにそう言われたから……。

わたしはもうすぐ死ぬらしい。夢に出てきた美人さんにそう言われた。こういうのが予知夢というにちがいない。いや、虫の知らせなのかも。

わたしは二年前から入院している。

理由はわからない。少なくとも、わたしには。きつと、家族にだけ知らされている、というやつだ。これがドラマだったら、じきにわたしも知ることになると思う。でも、別にドラマじゃないから、死んでもわかんないんじゃないかな？

ベッドに座って、ぼーっと思っていたら、頭上右上30センチのところから音が降ってきた。おそらく、わたしに話しかけたのだろう。と、遠回しに考える。別に彼のことは、嫌いではない。誰に話しかけられても、こうなるのだ。

彼は、一年ぐらい入院している。優しそうな好青年だ。一般的には。まあ、実際そうなんだけどね。それで、彼は明日退院するらしい。これは、現在進行形で彼が今言っていることだ。

良く分らないのだけど、わたしたちは付き合っている、らしい。

彼から言っ来て、わたしはOKした。別に、嫌いじゃないのですね。

彼は、ニコニコしながら、寂しくなるだとか、時々お見舞いに来るだとか、言っている。

あー。わたしたちはもう違う世界の人間なんだなあ。と、痛感。わたしなんかと一緒にいて、楽しいのかな。なんて、初めて思っ

た。きつと、あんな夢を見たからだ。

死んだら会えなくなる。寂しく思ってくれるかな、彼は。

もうすぐ死ぬって、言った方がいいのかな？

しばらくすると、看護婦さんが入っていて、もう消灯だ、と言った。彼はお休みと言って、自分のベッドに戻っていった。

彼が戻るとすぐ、カーテンを閉め就寝準備。さつさと横になる。目を閉じると、何をしたわけでもないけど、睡魔が襲ってきて、夢に引きずりこまれる。

ああ、また同じ夢か。何も無い空間にボクと美人さん。

今日も美人さんがわたしの頭に話しかける。

いつもと違う内容。

手を差し出す美人さん。

そうだ。美人さんは、もしかして、

こっちにおいで。

死神？

わたしも、同じように手を伸ばす。

が、

しかし。

ダメだ。

わたしの隣に彼はいた。

わたしが伸ばしかけた腕を掴んでいる。

もう一度、言った。今度は確認するように。

突然、美人さんが、かっと目を見開くと、筋張った腕を伸ばした。

美人さんの面影は、もうない。そしてあれは、彼の体を掴んで、深い闇の中に連れて行ってしまった。

バサッ。

跳ね起きる。

はー。はー。はー。

息が荒い。

そして、寝汗が凄い。凄すぎて、肌寒いほど。

あつ、そうだ。連れていかれたあと、どうなったんだ？

ベッドからそっと降りる。スリッパを履くのは面倒なので、裸足のまま。

ひたひたひたひたひたひた、ぴたり。

ドキドキする。そっとカーテンを開ける。

いた。確認完了。ちよつと、顔が青白いような気がするけど……。

大丈夫、わたしも今はきつと同じ。

任務を全うしたであります、隊長。隊長？誰？まあ、いいか。

安心したら、眠くなってきた。

わたしは、ベッドに戻って寝直した。朝までぐっすりだった。

結局、彼は死んでいたらしい。

夜のうちに、心臓麻痺でポックリと。苦しくはなかったらしい。

医師曰く、そういうことだ。

あと、原因は不明。そりゃそうだよな。彼は、わたしの代わりに逝ってくれたんだから。

その後、一週間程度で回復に向かい、その3日後わたしは退院した。

嘘のようだ、と医師が。

奇跡だ、と家族が。

そんなことはない、とわたしの心が、叫んでいた。

退院後、彼の家族と関わりは全くないが、彼の命日には、毎年、墓参りに行っている。

たまに思ってしまう。夢から覚めた時に、彼の異常に気が付いていたら、彼は今、どうしていただろうか、と。わたしはどうしていただろうか、と。

彼は、生きていたのだろうか。

わたしは、死んでいたのだろうか。

答えはもう出ないけど。

(後書き)

この小説は、少し前に書いたものです。
なので、読みにくかった部分もあったと思いますが、最後まで読んでくださり、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2989i/>

夢の中

2010年10月20日15時51分発行